

契約書には重要な事柄が記載されているので、必ず何度も目を通す必要があります。とはいえ、契約書を一読しただけで理解することは、なかなかできるものではありません。そこで、契約書を理解するためのポイントを挙げたいと思います。

10個のチェックポイント

契約書の重要性は誰もが認識しているところですが、チェックすべきポイントがどこか、どのように変更すればリスクヘッジができるのかについて、迷うことが少なくないとおもいます。

契約書を見た時、まずどこを見て、何から確認しないといけないのでしょうか？

そこで今回は、契約書検討ポイントをチェックポイントにまとめました。そうすれば初めて見る契約類型でも、だいたいの注意点がわかるので、漠然と読むよりは理解度が高くなります。

1. 当事者、日付、金額、金利

契約当事者（サインする人）は適切か？住所氏名、所属、代表者印が明確か？

契約日の日付が入っているか？

金額や利息は正しいか？

契約期間が明確か？（期間のある契約の場合）

2. 適切な構成

甲乙が逆になっていないか？

誤字脱字がないか？

クライアントのニーズに応えたものになっているか？

問題発生時の取扱を理解しているか？

3. 明確な「必須の」義務と「選択可能な」権利

クライアントの相手方が遵守すべき義務が明確に記載されているか？

裁判管轄は明確、公平か？（遠方の取引先、海外との契約など）

条項が明確に「誰が」「何を」し、「誰に」「いつ」行うのかを延べているか？

4. 表明と保証

契約書に、クライアントが頼りにできる全ての事実・表記・担保等について、クライアントを受益者とする表明や保証が含まれているか？

5. 契約書内部と契約書外部の調和

文書が望まれる構造と一致しているか？

当該取引に含まれる他の文書と整合性が取れているか？

定義条項やボイラープレート部分が全ての文書を通じて矛盾せず、曖昧さを残していないか？

6. 実質的な理解

契約の意図（目的）をはっきりさせているか？
当事者が文書の各条項を理解しているか？
第三者に理解できない用語を用いていないか？
全ての条項を完全に理解し、そして他の条項や文書との関連も理解できているか。

7. 実行することの仮定

様々な事実パターンを想定し、取引と文書の「ライフサイクル」を「通しで」考えてみる。

8. 実行しない、債務不履行の仮定

片方もしくは双方の不履行を仮定。
トラブルが起こる前に未然にそのリスクを軽減しておくこと。

9. 破綻の危険を記述

万が一に備えて、損害賠償の規定はあるか？
仮に片方が破産の申立てをした場合の取り扱い。
財産や権利は、法律上のものか？
破綻した時に備えて担保や第三者保証が必要かどうか検討しているか？

10. 最悪のシナリオを考慮すること

契約の解除についてもあらかじめ規定しているか？
文書が発効し、契約当事者が険悪な関係になってきたときを想定し、あらゆる可能性を想定したものになっているか？

今回の上記リストは、できあがった契約書のチェックだけでなく、これから作成に入る際や、これから交渉に入る契約の、事前準備にも使えます。事前に読んでおけば契約交渉でどんな点についてあらかじめ決定しておけばいいかを知ることができますので、ご参考にして頂ければと思います。

以上